

# 平成27年度PDCAサイクルづくり支援事業C調査集計結果及び分析報告

教学指導課

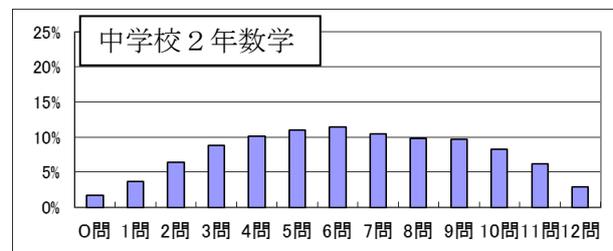
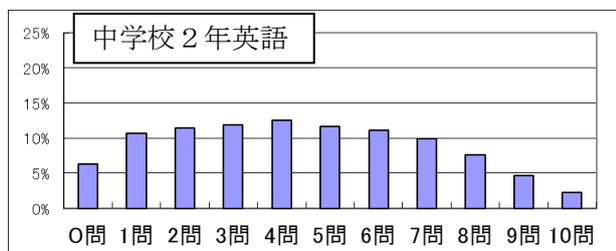
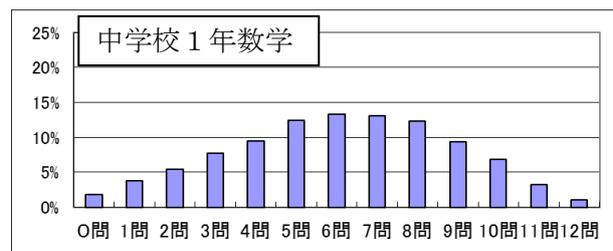
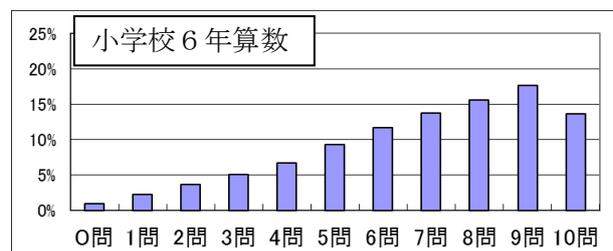
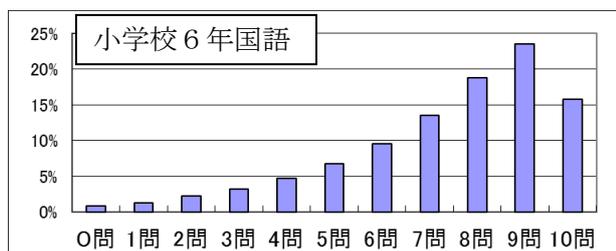
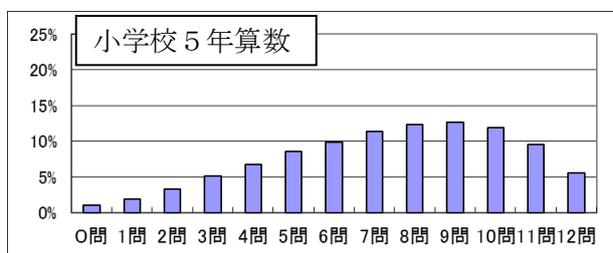
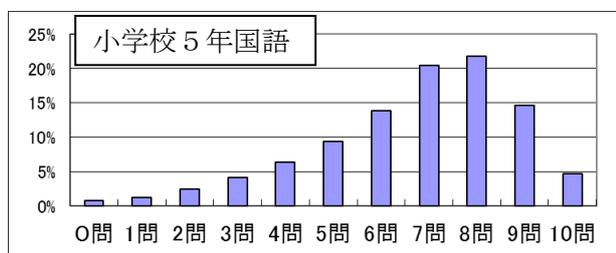
## 1 調査教科及び調査した児童生徒数

(上段；参加人数，下段；参加校数)

	国語	算数・数学	英語
小学校5年	15,343人(81.1%) 314校(85.6%)	15,333人(81.0%) 314校(85.6%)	
小学校6年	8,807人(45.1%) 190校(51.8%)	8,819人(45.3%) 190校(51.8%)	
中学校1年		14,162人(72.8%) 157校(84.9%)	
中学校2年	14,586人(73.1%) 159校(85.9%)	14,763人(74.0%) 162校(87.6%)	14,502人(72.7%) 160校(86.5%)

(参考；全県 小5:18,920人，小6:19,522人，中1:19,466人，中2:19,958人，小学校367校，中学校185校)

## 2 正答数の分布グラフ



国語については、小学校、中学校ともに右よりの分布となった。算数数学については、小学校5・6年は右よりの分布となったが、中学校1・2年では左右対称に近い分布となった。英語（中学校2年）については、左よりの分布となった。各校においては、自校の分布と比較して傾向をつかみ、補充指導等により全ての生徒に基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けるようにしたい。さらに、伸びる力を一層伸ばすことを視点とした授業改善を進めていくことが必要である。

### 3 正答数の分布

(単位 上段；人，下段；%)

	0問	1問	2問	3問	4問	5問	6問	7問	8問	9問	10問	11問	12問
小5 国語	120	186	373	634	966	1427	2112	3092	3305	2201	710		
	0.8	1.2	2.4	4.2	6.4	9.4	13.9	20.4	21.8	14.7	4.7		
小5 算数	157	286	506	788	1031	1300	1484	1725	1869	1912	1801	1432	827
	1.1	1.9	3.3	5.2	6.8	8.6	9.8	11.4	12.4	12.6	11.9	9.5	5.6
小6 国語	71	110	195	277	406	580	825	1164	1621	2029	1358		
	0.8	1.3	2.2	3.2	4.7	6.7	9.5	13.5	18.7	23.5	15.8		
小6 算数	78	192	315	438	586	804	1013	1192	1342	1526	1163		
	0.9	2.2	3.7	5.0	6.7	9.3	11.7	13.8	15.6	17.7	13.6		
中1 数学	251	533	767	1071	1320	1746	1878	1841	1725	1325	963	457	154
	1.8	3.8	5.5	7.7	9.4	12.4	13.4	13.1	12.3	9.4	6.8	3.2	1.1
中2 国語	57	72	204	384	750	1260	2109	2952	3268	2556	829		
	0.4	0.5	1.4	2.6	5.2	8.7	14.6	20.5	22.7	17.7	5.7		
中2 数学	243	546	936	1289	1465	1607	1674	1538	1437	1404	1197	876	408
	1.7	3.7	6.4	8.8	10.1	11.0	11.5	10.5	9.8	9.7	8.3	6.2	2.9
中2 英語	903	1527	1651	1718	1807	1677	1587	1426	1081	668	312		
	6.3	10.7	11.5	11.9	12.6	11.7	11.1	9.9	7.6	4.7	2.3		

### 4 各問の正答率 (単位%)

○知識に関する問題 ◇活用に関する問題

小5 国語	1一 A○	1一 B○	1二 小山◇	1二 高山◇	2一 ◇	2二 目次○	2二 さし紙○	3一 ○	3二 ◇	3三 ◇		
	82.5	80.5	77.7	74.6	39.0	82.8	84.5	87.3	21.9	40.6		
小5 算数	【1】 (1)○	【1】 (2)○	【1】 (3)○	【1】 (4)○	【2】 ○	【3】 (1)○	【3】 (2)○	【4】 ○	【5】 (1)○	【5】 (2)○	【6】 ◇	【7】 ◇
	59.5	76.2	63.0	78.2	65.4	40.0	62.7	80.1	46.4	68.8	56.3	39.5
小6 国語	1一 ○	1二 (1)○	1二 (2)○	1二 (2)○	1二 (3)◇	1二 (4)◇	2一 ア○	2一イ ○	2二 ◇	2三 ◇		
	66.1	70.7	92.5	80.6	45.3	75.0	77.9	89.2	80.0	61.5		
小6 算数	【1】 ○	【2】 ○	【3】 ○	【4】 ○	【5】 ○	【6】 ○	【7】 (1)○	【7】 (2)◇	【8】 ◇	【9】 ◇		
	53.8	80.8	59.9	72.4	67.1	78.6	81.3	65.1	75.0	50.1		
中1 数学	【1】 (1)○	【1】 (2)○	【2】 ○	【3】 ○	【4】 ○	【5】 ○	【6】 ○	【7】 (1)◇	【7】 (2)◇	【8】 (1)◇	【8】 (2)◇	【8】 (3)◇
	73.3	74.5	12.0	16.8	82.7	68.2	39.0	89.0	30.9	36.1	60.7	26.5
中2 国語	1一 ○	1二 ◇	1三 ◇	2一 ○	2二 ア○	2二イ ○	2三 ◇	3一 ○	3二 ○	3三 ◇		
	73.6	76.0	53.6	89.8	86.2	89.0	51.0	89.8	75.5	19.8		
中2 数学	【1】 ○	【2】 ○	【3】 ○	【4】 ○	【5】 ○	【6】 ○	【7】 ○	【8】 ○	【9】 (1)◇	【9】 (2)◇	【10】 (1)◇	【10】 (2)◇
	21.0	57.2	75.6	46.4	79.1	64.9	33.4	63.2	53.0	54.0	35.1	48.0
中2 英語	【1】 ○	【2】 ○	【3】 ○	【4】 ○	【5】 ○	【6】 ○	【7】 ○	【8】 ◇	【9】 ◇	【10】 ◇		
	70.0	53.5	41.1	48.2	56.1	27.5	22.5	63.2	24.3	33.7		

## 5 知識に関する問題と活用に関する問題の正答率 (単位%)

	小5国語	小6国語	中2国語	小5算数	小6算数	中1数学	中2数学	中2英語
知識に関する問題	83.5	79.5	84.0	64.0	70.6	52.4	55.1	45.6
活用に関する問題	50.8	65.5	50.1	47.9	63.4	48.6	47.5	40.4

いずれの学年、教科においても、知識に関する問題より、活用に関する問題の正答率の方が低くなっている。特に、記述式の問題の正答率が低い傾向が見られる。後ほど示す各教科・学年の課題と指導改善の方向を参考にして、確実に授業改善を進めていく必要がある。

知識に関する問題では、一部で定着が不十分なものが見られる。C調査問題は、今年度の学習内容なので、補充・補完指導を速やかに行い、児童生徒が確実に理解できるようにすることが必要である。確かな理解を深める授業を行っていくとともに、クリア問題、レビュー問題等（総合教育センターホームページ「学びの広場」参照）を活用して、さらに確実に学習内容を定着させることが必要である。

## 6 C調査結果から見えた課題と指導改善のポイント

### C調査結果で見えた課題

- ・用語や公式などについての意味を理解すること。
- ・根拠や立場を明確にして、自分の考えを書いたり説明したりすること。

### 指導改善のポイント

1 用語、単位、公式、文型などについては、用い方や例文を示すだけでなく、言葉や図を関連付けて説明したり、目的や意図に応じて構成したりする活動を取り入れましょう。

- ・用語や公式を複数の場面で実際に用いる、具体的な事柄を当てはめて検討する、複数の例文を書いて比較する、共通点や相違点を整理し確認するなどの活動を行うことで、意味の理解を深めるようにしましょう。(小5算【3】(1)、小6算【1】、中1数【2】、中2数【7】、中2英【6】など)

2 問題解決において、分かったことを整理してまとめたり、文章と図等を関連付けて自分の考えを書いたり、判断の理由を言葉や図等を用いて説明したりする活動を取り入れましょう。

- ・付箋等を用いて情報や登場人物の心情を整理する、問題文にある情報を図や表や式などに整理する、目的や意図に応じて文章を要約する、条件に合うような表現かどうか振り返るなどの活動を行うことで、根拠や立場を明確にして自分の考えを書いたり説明したりすることができるようになります。(小5国【2】一、小5国【3】二、小6国【2】三、中2国【3】三、小5算【5】、小6算【6】、中1数【3】、中2英【9】、中2英【10】など)

## 7 各教科・学年において課題となった問題と指導改善の方向

### (1) 小学校5年国語

#### 2 一 正答率 39.0%

##### ①課題

分かったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書くこと

- ・二文を一文に直すことができない児童が約10%いる。
- ・「体の中の水分の量を調整する」「消化液の働きを活発にする」の二つの内容を取り上げて解答できない児童が約35%いる。
- ・他のふせんの書き方を参考にせず、文末を敬体で表している児童が約5%いる。

##### ②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成26年度全国学力・学習状況調査B 2 二 30.0%
- ・平成27年度P調査 40.2%

##### ③指導改善の方向

- ・科学読み物を読み、分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書くことができるように指導する。その際、疑問に思ったこと、分かったことなどを色の違う付箋に書き分けることで、事実と感想、意見などを区別して書くことができるように指導することが効果的である。
- ・必要な情報を取り出し、分類したり関係付けたりした上で全体を通して分かったことや考えたことを一定のまとまった文章にして書くことが重要である。その際、構成や記述などについて、条件を示すことが効果的である。

- ・授業では、次のような指導が考えられる。

◇ 構成についての条件：文と文をつなぐ方法を考え、二文を一文に書き直す。

◇ 記述についての具体的な方法（モデル）

方法① 「～たり，…たり」を使ってまとめる。

方法② 「～や」を使ってまとめる。

方法③ 「～も，…も」を使ってまとめる。

方法④ 「～こと，…こと」を使ってまとめる。

◇ 科学読み物などを読み、分かったことや考えたことをまとめる際には、必要な条件を与えたり、教師がモデルを示したりして、一定のまとまった文章を書く。

補充・補完指導をしましょう



クリア問題・小5・6月の活用

#### 3 二 正答率 21.9%

##### ①課題

質問の意図を捉えること

- ・質問の意図が捉えられず、他のねらいを選択した児童が約80%いる。

##### ②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成26年度全国学力・学習状況調査B 1 二 59.5%
- ・平成27年度P調査 61.0%

### ③指導改善の方向

- ・話し合いを計画的に進め、一定の結論を導いていくためには、相手の考えに質問し、自分の考えとの共通点や相違点を整理したり、互いの考えの根拠を明らかにしたりすることが重要である。そのためには、**多様な質問の観点とそれに基づく話型を具体的に指導することが効果的である。**

- ・授業では、以下の観点を意識しながら質問を考えるように指導することが大切である。
  - ◇ 相手の主張の内容と自分の主張の内容との共通点や相違点を知ろうとする質問(例:選択肢1)  
《質問例》「私は、～について…と考えています。Aさんの考えと同じ(違う)ところは〇〇という点です。そのように捉えていますか、どうでしょうか。」
  - ◇ 相手の主張に対する自分の考えについて感想などを求めようとする質問  
《質問例》「〇〇さんの考えについて、私は、～と考えました。このような私の考えについてどう思いますか。」
  - ◇ 相手の主張の中で述べられていないことを詳しく聞き出そうとする質問(例:選択肢4)  
《質問例》「～についての意見はありましたが、～についてはどのように考えますか。」
  - ◇ 相手の主張の中に理由が述べられていないことを明らかにしようとする質問(例:選択肢2)  
《質問例》「Aさんは『…』と言いましたが、そう考えた理由はどのようなことですか。どのような点から(どうして)そう思ったのですか。」

補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題・小5・12月の活用

## 3三 正答率 40.6%

### ①課題

立場を明確にして、質問や意見を述べること

- ・高橋さんの発言を引用していなかったり、説明されていることを質問したりしている児童が約20%いる。

### ②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成26年度全国学力・学習状況調査B **1**三 31.4%      ・平成27年度P調査 30.7%

### ③指導改善の方向

- ・討論では、課題解決のために互いの立場や意見を踏まえた上で、質問や意見を述べることが重要である。そのためには、**話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えとの共通点や相違点を明確にして聞くことが大切である。**
- ・本や文章、話の内容などから必要な語句や文を引用する際は、目的に合わせて適切に引用できるように「読むこと」「書くこと」の領域を関連付けて指導することが重要である。

- ・授業では、次のような指導が有効である。
  - ◇ 話し手の発言内容の中から、中心となる考え、理由や根拠などを、短い言葉で要約してメモなどに書き留めるように指導する。
  - ◇ 原文や話の内容を正確に引用することや、引用する部分と自分の考えとの関係などを明確にすることなどが大切である。また、書く際には、引用する部分をかぎ(「」)で括ることや、引用する部分が適切な量になることなどについて具体的に指導する。

補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題・小5・10月の活用

## (2) 小学校5年算数

### 【3】(1) 正答率 40.0%

#### ①課題

量の単位や測定の意味等について理解すること

- ・  $1\text{ m}^3 = \square\text{ cm}^3$  に対して、 $100\text{ cm}^3$  を選択している児童が、昨年度同様約 30%いる。

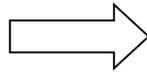
#### ②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・ 平成 26 年度全国学力・学習状況調査<sup>5</sup>(2) ( $1\text{ cm}^3$ を基に直方体の体積を求める問題) 82.7%
- ・ 平成 26 年度C調査 (同問題) 35.1%

#### ③指導改善の方向

- ・ 体積を求める式は、単位立方体の個数を求めるための式であることを確認することが必要である。 $1\text{ m}^3$  は  $1\text{ cm}^3$  がいくつ分か考える場面を設定し、**具体物や図**を利用しながら、**式と結び付けて言葉で説明する算数的活動**を取り入れたい。その際、 $1\text{ cm}^3$ の立方体を縦1 m、横1 mの正方形の中に敷き詰めた1段分の個数が  $100 \times 100$  個、それが100段あるから  $100 \times 100 \times 100$  個で求められることを確実に理解する必要があり、量の大きさについての実感や感覚を育てるよう配慮する必要がある。

補充・補完指導をしましょう



レビュー問題 小5・②-1, 2 の活用

### 【7】 正答率 39.5%

#### ①課題

条件を変えた複数の図形で、体積が等しいことの理由を言葉や式や図を用いて説明すること

- ・ 無解答率は減ったが、説明が不十分な解答であった児童が約 50%いる。

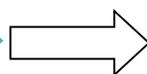
#### ②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・ 平成 27 年度P調査 44.1% ・平成 26 年度C調査(同問題) 39.7% ・平成 26 年度P調査 51.9%

#### ③指導改善の方向

- ・ 事柄の正しさを示したり理由を説明したりする活動において、他者を納得させるために必要な事柄を意識し、これらをもれなく、順序よく用いることができるようにすることが大切である。例えば、本問題で「全体の体積が変わらないから」と答えた児童には、「全体の面積だけで白い部分の体積について説明できますか、他に必要なことは何でしょう。」などと問いかけて、必要な事柄を意識できるようにすることが考えられる。
- ・ 問題解決の過程や自分の考えを、言葉や式や図を用いて説明する活動を取り入れたい。その際に、言葉や式や図の効果的な使い方を考えたり、それらの関連性を明確にしたりすることが必要である。また、解決方法を振り返る活動を取り入れ、条件不足の解答をもとに、どんなことが書かれていれば正しい説明になるのかを話し合い、自分が書いた説明を見直し、よりよい表現に修正することが大切である。

補充・補完指導をしましょう



チャレンジ問題 小5・12月②, 1月② の活用

レビュー問題 小5・②-4, ⑨-3の活用

【5】(1) 正答率 46.4% (2) 正答率 68.8%

①課題

示された場面の数量の関係を理解すること

- ・(1) 比べる量ともとにする量を逆に捉えている児童が、昨年度同様約 40%いる。
- ・(2) 図からもとにする量より比べる量の方が小さいことから、除法の計算になると捉えている児童が約 20%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成 26 年度全国学力・学習状況調査 A<sup>2</sup>(基準より短いものを求める式) 54.3%
- ・平成 27 年度 P 調査 【5】(1)85.0%(2)61.9%
- ・平成 26 年度 C 調査 【5】(1)49.1%(2)43.6%      ・平成 26 年度 P 調査 85.4%

③指導改善の方向

- (1) 比べる量ともとにする量を確かに捉えるために
- ・何倍という関係となっている事象で、何が比べる量で、何がもとにする量なのか捉えることができるようにすることが大切である。そのために、文章から分かることを順序よく図に表す活動を取り入れ、図から数量の関係を理解させることが必要である。
- ・何が何の何倍になるのか、求めるものは関係図のどこなのかなど、**数量の関係を明確にしなが**ら**問題の数量関係を関係図に表して、筋道立てて考える学習活動**を位置付けたい。特に、小数倍(割合が 1 より小さくなる場合)の数量の関係を図に表して考える場面を丁寧<sup>に</sup>扱うことが大切である。

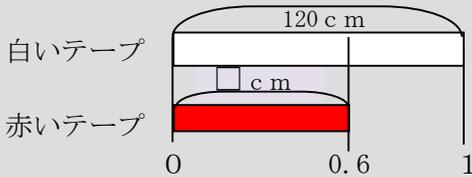
◇問題の場面で、文章から分かることを図に表す活動を取り入れて、図から数量の関係をとらえるようにすることが大切である。

白いテープの長さは 120 cm です。赤いテープは、白いテープの長さの 0.6 倍です。

- ①例えば、この場面を下の図のようなテープ図に表して、数量の関係をとらえることが考えられる。
- ア. 「白いテープの長さは 120cm」なので、白いテープに 120cm とかく。

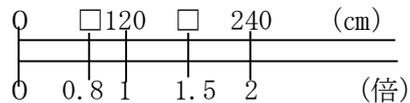
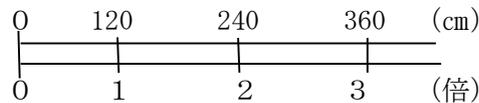


- イ. 「赤いテープは、白いテープの長さの 0.6 倍」なので、白いテープの長さがもとにする量となり、赤いテープが 0.6 倍となるようにかく。



(2) もとにする量と比べる量の関係を的確に捉え、演算の決定が確実にできるために

下の図のように、数直線を用いて、120 cm を 1 とした時に、 $120 \times 2$ ,  $120 \times 1.5$ ,  $120 \times 0.8$  等で求められること  
 を説明する活動を取り入れることを通して、赤いテープの長さを求める式が、「 $120 \times 0.6$ 」になるのか  
 「 $120 \div 0.6$ 」  
 になるのかを判断できるようにすることが考えられる。



補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題 小5・9月①の活用

レビュー問題 小5・③-2, ⑫-1~4の活用

### (3) 小学校 6 年国語

1一 正答率 66.1%

#### ① 課題

目的や意図に応じ、取材したことをもとに文章全体の構成を考えること

- ・「書くこと」の領域において「課題設定や取材」から「構成」へつなげていく場面で、パンフレットや新聞などの表現の様式に応じて、伝えたい内容を選びながら全体の構成を考え、適切な表現で見出しを書くことができない児童が約 30%いる。

#### ② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成 25 年度 C 調査 70.9%      ・平成 25 年度 P 調査 42.7%

#### ③ 指導改善の方向

- ・パンフレット等を書くためには、誰が何のために作るのか、どのような情報を伝えたいのか、読み手はどのような情報を望んでいるのかなど、書く目的や意図を明確にし、紙面全体の構成を考えることが重要である。

授業では、編集会議を効果的に取り入れ、読み手の関心を引き付けるような割り付けや見出しになっているか、目的や意図に応じた分かりやすい記事になっているか、読み手の理解を補助するための写真や図、表などが効果的に取り入れられているか、など、視点を設けて評価し合うことが大切である。

補充・補完指導をしましょう

クリア問題・小5・1月 の活用  
チャレンジ問題・小5・11月の活用

1二 (3) 正答率 45.3%

#### ① 課題

目的や意図に応じ、記事に見出しを付けること

- ・複数の見出しの候補の中から一つを選んだ理由について、書き手の目的や意図と、表現の仕方を合わせて捉えられない児童が約 50%いる。

#### ② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成 25 年度 C 調査 62.1%      ・平成 25 年度 P 調査 41.4%
- ・平成 27 年度全国学力学習状況調査 B 1二 72.3%

#### ③ 指導改善の方向

- ・見出しを付けるに当たっては、読み手にどのような内容に興味・関心をもってほしいのか、何を伝えたいのかなど、編集の目的や意図を明確にすることが重要である。その上で、語句の反復、誇張、倒置、呼び掛けなど、様々な表現の仕方とその効果について検討する必要がある。

授業では、見出しと記事の内容が対応しているかどうかを確認する場面を設定することが重要である。その上で目的や意図が違う見出しに合わせて記事を書き換え、読み比べるなどの工夫をすることが必要である。

補充・補完指導をしましょう

クリア問題・小5・9月2月 の活用

## 2三 正答率 61.5%

### ① 課題

#### 文章と図とを関係付けて、自分の考えを書くこと

- 平成 27 年全国学力学習状況調査 B 2 とほぼ同じ内容の問題である。正答率は約 20 ポイント上昇したが、全体として 6 割程度の正答率である。図に示された内容と、それに関連する文章の内容を的確に読み取って自分の考えを書く際に、中心となる文や言葉を捉えられない児童が約 10% いる。

### ② 過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- 平成 25 年度 C 調査 34.0% ・平成 25 年度 P 調査 13.0%
- 平成 27 年全国学力学習状況調査 B 2三 40.0%

### ③ 指導改善の方向

- 説明的な文章では、書き手が伝えたい内容を読み手に分かりやすく伝えるために、図表やグラフなどを用いる場合がある。文章と図表やグラフなどとの関係付けて自分の考えをまとめることは重要である。そのためには、図表やグラフなどが添えられた文章を提示し、それらと関係付けて読んだり、自分の考えを書いたりする指導を意図的に行うことが必要である。

#### 【図表やグラフなどを読み取る際のポイント】

- ① 何を表す図表やグラフなのか
- ② 図表やグラフの中にあるそれぞれの情報は何を表しているか
- ③ どの言葉や数字に注目するのがよいか
- ④ 注目する言葉や数字は何を意味するのか

これらのポイントを基に、各自で図表やグラフなどから読み取ったことをまとめることが重要である。

授業では、図表やグラフの内容が文章のどこに取り上げられているのか、どの程度詳しく、あるいは簡潔に説明されているのか、図表やグラフがあることによって文章がどのように分かりやすくなっているのかなど、文章と図表やグラフなどとの関係やその効果を捉えることができるように指導することが大切である。

また、図表やグラフなどを用いる方法やその効果を理解した上で、説明的な文章を書く際に、図表やグラフなどを効果的に用いることができるように指導することが考えられる。その際、他の資料などから必要な内容を引用するときの注意点について、具体的に指導することが大切である。

補充・補完指導をしましょう

クリア問題・小6・5月 の活用

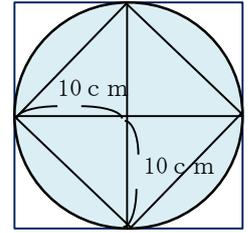
#### (4) 小学校 6 年算数

【1】 正答率 53.8 %

##### ①課題

円の面積について、およその大きさの見通しをもつこと。

・  $10 \times 10 < \text{円の面積} < (10 \times 10) \times 4$  を選択している児童が約 25%いる。



##### ②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

・平成 27 年度全国学力・学習状況調査 A[1](1) (小数の計算) 69.1% A[4](1) (角の大きさ) 83.4%

##### ③指導改善の方向

- ・円の面積の求め方を考えるとき、面積の大きさの見通しをもつことが大切である。本問題のような図を用いた説明し合う活動などにより、円の面積は、1 辺の長さが半径に等しい正方形の面積の 2 倍と 4 倍の間にあることを理解できるようにしたい。また、面積を計算で求めた場合、その結果について、本問題の図で確かめられることを理解しておくことも大切である。
- ・結果を見積もったり、結果を確かめたりすることを他領域においても適宜位置付け、方法や結果について振り返って判断できるようにすることが大切である。

※参照 平成 27 年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例 P.13, 14

補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題 小6・12月①の活用

【3】 正答率 59.9 %

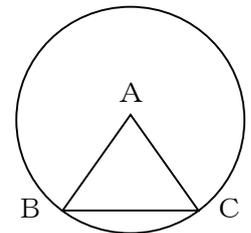
##### ①課題

示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を選択すること。

・平成 27 年度全国学力・学習状況調査と同じ問題である。正答率は 10 ポイントほど上昇したが、約 6 割の正答率である。「円周の長さは、直径の長さの約 3.14 倍になる。」や「1 つの円の直径の長さは、半径の長さの 2 倍になる。」を選択している児童がそれぞれ約 15%いる。

##### ②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

・平成 27 年度全国学力・学習状況調査 A[5] 48.4%



##### ③指導改善の方向

- ・作図する活動においては、図形を構成する要素に着目して図形の性質の理解を深めることが大切である。その際、作図の方法を図形の性質と関係付けて捉えることができるようにすることが大切である。
- ・指導に当たっては、作図などの活動を通して、図形のどのような特徴を用いているかを確認することが考えられる。例えば、まず、本問題の図形を示し、円のどのような特徴を用いれば、示された図のような二等辺三角形が作図できるか予想する場を設ける。その上で、実際に作図しながら、操作と予想した特徴を関連付け、なぜその特徴が作図で必要だったのかを話し合う活動を設けることが考えられる。

補充・補完指導をしましょう

レビュー問題 小3・③-1, ⑩-1 の活用

【6】 正答率 78.6 %

①成果

場面と図とを関連付けて、二つの数量の関係を理解すること。

- ・基準となる数量を捉え、正しい図を選択できた児童が多い。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

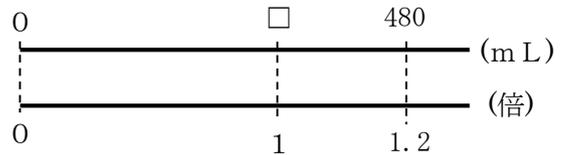
- ・平成 26 年度 C 調査（小数倍） 43.6%      ・平成 27 年度 P 調査（整数倍） 61.9%

③指導改善の方向

- ・数直線や図などを用いたり、具体的な場合に当てはめたりして数量の関係を捉えられるようにして、乗法と積の大きさ、除法と商の大きさの関係を調べる活動を取り入れることが大切である。また、文字を使った式の指導の場面でも、数直線や図などを用いて考える活動を通して、児童が問題を解決する手がかりをつかむことができるようにすることが大切である。
- ・例えば、示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることができるかどうかをみるため、平成 27 年度全国学力・学習状況調査の問題を活用したい。

〔算数 B 2 (2) 問題〕

せんざいを買います。家で使っているせんざいが、20%増量して売られていました。増量後のせんざいの量は 480mL です。増量前のせんざいの量は何 mL ですか。求める式と答えを書きましょう。



補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題 小6・9月② の活用

クリア問題 小6・10月② の活用

【9】 正答率 50.1 %

①課題

図形の性質を基に面積の関係をとらえ、判断の理由を言葉や式を用いて記述すること。

- ・面積は同じになると選択したものの説明不足の児童が約 20%いる。

②過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成 20 年度全国学力・学習状況調査 B 3 (3) 32.7%

③指導改善の方向

- ・理由を説明する際には、「AだからBとなる」のように、Aという理由とBという結論を明確にすることが大切である。さらに、何についてどのようなことが言えるのか、なぜ言えるのか、どういう条件の場合に言えるのかといったことを明らかにしながら説明することも大切である。例えば、「何を基に考えましたか」、「いつでも言えますか」などと発問し、児童が自ら考えることによって、**児童の考えの根拠を明らかにする活動を取り入れることが考えられる。**また、児童が自分の考えの根拠をノートに書いて、自らの活動を振り返ることができるようにすることも大切である。

補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題 小6・6月①, 1月① の活用